
テンプレチートオリ主に強制的にさせられた元一般人のお話

ゼニア

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

テンプレチートオリ主に強制的にさせられた元一般人のお話

【Nコード】

N0830Y

【作者名】

ゼニア

【あらすじ】

銀髪オッドアイで尚且つチート能力を強制的に持たされて転生させられた元一般人の物語。

この小説は神様転生、チート、オリ主の要素が出て来ます。

苦手な方は回れ右をして回れ左をしてください。

プロローグ

「.....ん？」

何もなく、見渡す限り真っ白な空間で一人の男が目覚めます。

「あれ？　ここどこだ？」

男はキョロキョロと当たりを見回していると

「ふむ、ようやく気がついたか.....」

そんな言葉と共に白いローブを着た老人が現れた。

.....side：謎の男

「あんた誰だよ？」

俺は突然現れた老人に問いかける。

これ夢なのかなあ.....

「ワシは最高神じゃ」

ん？西光 進？

「ああ、全国水平社宣言の」

「それは西光 万吉じゃ、ワシは最高神じゃ、言わば全ての神の頂点に立つとる者じゃな」

目の前の老人はそんな事を言う。

「くつ、可哀想に……この爺ちゃん、ボケちゃってるのね……！」

「いや、ボケとらんし、人を見た目と言動で判断すんなし」

何だ、正気なのか

「え？ てことはつまりガチなの？」

「うん、そう、ガチもガチ、大ガチじゃよ」

そんな馬鹿な……！

「な、なななな何で神様がいらっしやるんでございやすでゲスカ！？」

「落ち着け、驚き過ぎて言葉が変じゃ」

ま、まあまあ、と、取り敢えず落ち着こう。

すーはー、すーはー。

よし。

「落ちついたな？」

では話そう、お主がここにいる理由などをな」

- - - - -

神様説明中・・・

- - - - -

「つまり俺は死んだ、と」

「うむ、そうじゃ、下級神が誤ってお主を殺しての、偶々ワシが下界を覗いていたから良かったものの、お主を殺した下級神はバレていないと思ったのか、誤って殺した事を隠蔽しようとしておったから」

ひでえ、神様が殺しを隠蔽とか……

「じゃからその神には電気アンマ8時間の刑にしておいた」

「地味に辛い」

「ちなみにその下級神、女神ね」

らめええええ！？

「正直その女神を見に行きたいが、我慢して、結局俺はどうなるの？」

「こちらのミスじゃからな、お主には転生してもらっぞい」

おおっ！？ 来た、転生！

「異論は無さそうじゃな、では今からワシが言う条件と世界をどれか一つ選んでくれ」

1・子供魔法先生がいる世界へ行く、容姿は銀髪オツドアイ+チート能力。

2・ゾンビで溢れかえった世界の日本に転生する、容姿は銀髪オツドアイ+チート能力。

3・女性しか乗れない兵器がある世界に転生する、容姿は銀髪オツドアイ+チート能力。

4・何の不思議な事もない世界、かと思いきや悪の秘密結社とかいる世界に転生する、容姿は銀髪オツドアイ+チート能力

5・本気で何もない平凡な世界に転生する、容姿は銀髪オツドアイ。

「はっはっはっ、おいおいおいおい」

銀髪オツドアイでチート能力で。

「どこのテンプレチートオリ主だよ！？」

「気にいらんの?」

「気にいらんわ!？」

せめて銀髪オッドアイは止めて!？」

銀髪オッドアイとかいや過ぎるわ!

「残念じゃが無理じゃ」

何で!？」

「こんなテンプレチートオリ主になるならこのまま死んだ方がいいよ!」

「どうしても嫌なのかの?」

「やだよ!」

断固拒否する!

「しかたないの……」

諦めてくれたのかな?

「なら、無理矢理じゃああああ!!!!!」

じいさんがそう叫んだ瞬間、足下に穴が開き、落ちた、俺が。

「まさかの強制いいいいいい！！？」
「こんのクソジイいいいいいい！！！！」
「……………」

1話 転生

どうも、皆さん。

俺の名前は『如月きさらぎ 煉夜れんや』

え？ 誰って？

プロローグにいた謎の男だよ。

あのクソジジイに強制的に転生させられて、七年ほど立っています。
キングクリムゾンだが、赤ん坊時代の事を話してもしようがないし
ね。

それはそうと、あの駄神ガチで銀髪オッドアイに転生させてくれや
がりました。

信じられないだろ？ 日本人なんだぜ……俺。

ちなみに転生直後の回想……

- - - - -

『無事転生出来たみたいじゃの』

『おい、クソジジイ！

ふざけんなよ！？』

銀髪オッドアイなんかにしやがって！

どうせ銀髪オッドアイならラグナに憑依転生とかしたかったわ！

『あれあれ？ 最高神のワシにそんな事いっていいのかの？ くだすよ？ 天罰』

『やれるものならやってみろよ』

『運がよかったの、MPが足りないみたいじゃ』

『死ねよ』

ギャグってんじゃないやねえよ……

『まあまあ、そう怒るな、転生してしまったモノは仕方ないじゃろ』

アンタが強制的に転生させたんじゃないやねえか

『四の五の言うでない、では今からお主の能力を教えよう』

えらく唐突だな。

しかし能力か……まあチート能力なんだろうね。

『お主の能力は以下の通りじゃ』

1・界王拳

2・サイヤ人並みの気

3・SSS級魔力

4・ニコポ

5・ナデポ

『あ。あと、お主がおる世界はリリカルでマジカルな魔法少女の世界じゃからな』

『おかしいだろ!？

何だよ、界王拳って!？

公式チート能力持つてくんやよ!？

それにサイヤ人並みの気ってどの位だよ!？

いや、それ以前にニコポとナデポはいらねえ!』

『ほっほっほ、安心せい、界王拳は今のお主でも5倍まで耐えられるからの』

『そついつ事を言ってんじゃ……』

『じゃ、そついつ事で』

そついい、じいさんの言葉は途切れた。

『え、ちょ……』

マジで？』

- - - - -

回想終了。

正直、SSS級魔力だけでよかった……

そして、ニコポとナデポは本当にいない……

てかあまりにも能力が濃かったからスルーだったが、リリカルなのはの世界ってのもおかしいよね。

確かさ、あのじいさんが選べって言ってた世界ってさ

1はネギま

2はおそらく学園黙示録

3はインフィニット・ストラトス

4は秘密結社とか言ってたから仮面ライダーとかかな

5は普通の世界

……リリカルなのはは選択肢になかったじゃん……

適當すぎだろ、じいさん……

まあ、もう半ば諦めてるけど。

あれだな唯一の救いは俺の両親が銀髪オッドアイっていう明かに異常な俺を気味悪がったりせずちゃんと育ててくれてる事だな。

ありがとう、母さん、父さん。

そして、ニコポとかふざけた能力のせいで笑えなくてすみません。

……

さて、能力の事だが。

まず界王拳、赤ん坊の時から5倍とか出来る時点で薄々気づいてたけど、成長に連れてさらに倍に出来るようになった。

現在8倍まで出来るようだ。

これ、悟空みたいな修行したらどうなるんだろうね。

次にサイヤ人並みの気つてのはどうやら、悟空とかベジータ並みの気を持つてるようだ。

しかし、サイヤ人じゃないから気を100%フルには使えないみたい。

いや、正直クリリン、いやヤムチャ並みの気でもかなりチートだけどね？

夢のかめはめ波が撃てるのかな……

次にSSS級魔力、これがある意味普通。

よくある感じのチート能力だね

取り敢えずデバイスとか無いわけだから使い方がよく分からんがりンカーコアがあるのは感じられた。

んで最後はニコポ、ナデポと……

何でこんなハーレム作るぜ！みたいな最低系の能力なんだろ。

ニコポのせいで俺、アレだよ？ 無口無表情で何時も隅っこで本呼

んでる長門さんみたいポジションになってるんだよ？

唐突なアクシデントで笑いそうになった時とかマジ困る、必死で顔隠さんとヤバいからな……

一回ニコポを偶々いた猫さんにやってみた事があるんだが、凄いなつかれた。

どんなに引き離そうとついてくるから、界王拳使って逃げたのに俺の事追いかけて来たからな。

お陰で今は我が家の家族です。

ナデポは言わずもがな、ニコポが猫に対してではあるが威力が絶大だったからナデポとか出来ねえ、てか初対面の人を撫でようとかしたら変態だよ。

この二つの能力は正直どうにかせんとヤバい。

将来的にもしも子供が出来たりしたら、俺自分の子供に笑いかけたり撫でたり出来ねえじゃん……

親に本気で惚れる子供とか薄い本だけでいいよ。

しかも厄介なのが男に対しても効果あるってのがダメだよなあ……

何とかしないと、ウホッな展開に……

止めよう……
想像したら気分が……

ま、まあまあ、うん、とにかく、こんな感じで俺の第二の人生が始まったのでした。

主人公紹介

【如月^{ぎむらぎ} 煉夜^{れんや}】

神様に強制的に銀髪オッドアイのテンプレチートオリ主にさせられた元一般人。

鏡をみるたびに毎回orz↑こつなる。

だがかなりのイケメンではある。

最近、名前もオリ主っぽい気がするんだけど……と更にネガティブっている。

能力は界王拳、馬鹿みたいに高い気、今から数年後のなのはさん並みの魔力、ニコポ、ナデポ。

界王拳は最初から使える。

気は練習中、しかし、界王拳が使えるためにすぐに扱えるかもしれない。

魔力は扱い方が分からない、正直気だけでもいいんじゃないかな？と思っている。

ニコポのせいで社交性皆無の男の子になってしまった。

しかも、銀髪オッドアイというのもあってか友達がいらない。

しかし、内心でははっちゃけ倒したくて仕方がない。

人がいる前で笑えない分、家の自室で思う存分笑っている。

能力を完全に使いこなせるように頑張っているが、ニコポのせいで原作に介入するかどうか悩んでいる。

「これも全てニコポって奴の仕業なんだ」

「なんだって、それは本当かい？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0830y/>

テンプレチートオリ主に強制的にさせられた元一般人のお話

2011年10月31日16時26分発行